

インドネシアに伝わる
魅惑の影絵芝居劇



第6回ワヤンの実演

アマ 使者に立つ

ラマーヤナより

2014.9.27(土)

13:30 開場 14:00 開演

※13:30より歓迎のガムラン演奏が始まります。

※16:20 終了予定。

観覧無料◆入退場自由◆全席自由

会場◆東京家政大学120周年記念館1階 多目的ホール

ワヤンの実演

当館では平成19年に特別企画展「影と色彩の魅惑 ワヤン」を開催し、日本ワヤン協会主宰である松本亮氏が40年かけて収集されてきた膨大なコレクションの一部を皆様にご紹介しました。翌平成20年には氏が所有するコレクションから、500点を超す資料をご寄贈いただきました。

この貴重なワヤンの魅力を皆様にご紹介いただくため、当館では平成21年より、日本ワヤン協会の協力を得て、インドネシアの影絵芝居ワヤン・クリの実演を毎年行っており、今年で6年目になりました。

今回ご覧いただく「アノマン使者に立つ」は300を優に超えるといわれる「ラーマヤナ」と「マハーバーラタ」の演目のうちでも特に有名なもののひとつです。実演は、本場インドネシアで録音された音声に日本語を重ねたテープを用います。



過去の実演の様子

アノマン使者に立つ



演目解説

ラウォノによって強引にアルンコ国へさらわれたロモの妻シント。巨鳥ジャタユからそのことを知ったロモは、やがて猿王スグリウォに会い、彼らの助けを得てアルンコ国への道を辿る。猿たちの中には、アノマンもいる。

猿軍とともに、ロモはアルンコ国をはるかに望む丘に到着する。しかしそこには大海が横たわっている。全軍の力をたくわ

えるため、しばらくここで休息することとし、ロモはアノマンを呼び、アルンコ国へ侵入して妻のシントの安否を探らせることにする。アノマンは空を飛び、大海を越える。

シントはアルンコ国の緑濃いアンソコの森の花苑に閉じこめられている。そこへ毎日のようにラウォノがやってきて、自分の妻になるよう脅迫しつづけるのである。

※今日の演目はここからはじまります。

アンソコの苑に閉じこめられたシントの元へ、またしてもラウォノが現れる。しびれを切り、「今日こそ自分のものにならなければ殺す。」と言い刀を抜く。これを見た侍女のトリジヨトは割ってはいり、「いまシントは王様のため、素晴らしいバティック(ろう染めの布)を染めているゆえ、その仕事が終わるまで待っていてほしい。」と嘘をつく。ラウォノはその言葉を聞き、とりあえずはこの場を去る。

そのあとに白いイタチに身を変えたアノマンが入ってくる。トリジヨトの膝に乗り戯れて、やがて正体を現わし、シントの前に跪き、ロモから使わされた者であることを明かす。ロモから預かった指輪を渡し、ロモの言葉として、「もしこれがあなた様の指にぴったりなら、まだ、あなた様の身は潔白だという証拠になりましょう。」と言う。シントはロモの心情に不快感を示す。アノマンがいまロモの元へお伴すると言い出したのに対し、シントは、「わが君(ロモ)は指輪を与え、私を試そうとされました。わが君はこのシントの愛を信じてられないのです。疑いが生じるのは男だけではない、女にだって疑い



は生じるものなのです。わが君プラブ・ロモはこのアルンコ国まで私を迎えに来なければなりません。」と答えた。

アノマンはシントからロモへの贈物をうけとる。それは黄金の器で、その中にまだ湯気のたつ飯が入っていた。「それを持ち帰り、開けてまだ湯気が立っていたら、あなたの主人(ロモ)が私を取り戻すことができるしるしとなります。もし冷めてしまっていたならば、他に妻を得られますように。もはや私を探されることもありませぬ。」と言うのであった。さらにアノマンは、シントからひとつの超能力の呪文をもらう。去るにのぞんで、アノマンはこの呪文の威力を試そうとする。

アノマンはアルンコの王宮でひと暴れする。そのはてに、ラウォノの息子インドラジトと戦い、捕らえられる。アノマンは火あぶりの刑をのぞみ、それを機に、尻尾の先についた火を王宮のあちこちにふりまき、大火を起こさせる。

アノマンは空を飛び、いまやアルンコ国を離れようとして、海辺に倒れている一人の武将の姿を見る。これはさきに、兄ラウォノの非道をなじて、かえってラウォノにより殴打され、死んだと思われて海辺にうち捨てられたウィビソノだった。

アノマンの呼びかけに気付いたウィビソノは、いまはこれまでと、ロモに仕える腹を決め、ロモのもとに案内してくれるようにと、頼むのだった。



Prabu Rahwana
ラウォノ

アルンコ国王。ドソムコとも呼ばれ、飽くなき業欲を意味する。シントをさらい、自分のものとなるよう毎日脅迫しつづける。



Raden Indrajit
インドラジト

ラウォノの息子。数々の超能力を備えた、アルンコ国における無双の武将。アノマンと対決する。



Raden Wibisana
ウィビソノ

ラウォノの弟。シントをロモの元へ返すようにと業欲なラウォノを諷めるが、殴られ海にうち捨てられてしまう。



Dewi Trijata
トリジヨト

ウィビソノの娘。シントに侍女として仕え、ラウォノの業欲からシントを守っている。



Dewi Sinta
シント

ロモの妻。ラウォノにさらわれ、アンソコの森の花苑に閉じこめられてしまう。



Prabu Rama
ロモ

アヨディヨ国王の長男。国王即位を拒まれ、ダンドコの森を妻シント、弟レスモノとともに放浪していたところ、ラウォノにシントをさらわれてしまう。アノマンにシントの安否を探るよう命じる。



Anoman
アノマン

本演目の主人公。白い猿の姿をしているが無類の超能力を身につけている。額のふたつのごぶ、鋭い爪ポンチョノコ、市松模様の衣装が特徴で、風に乗って飛ぶことができる。おじ叔父の猿王スグリウォに臣従してロモ一行を助け、ラウォノ打倒とシント奪回において数々の活躍をする。別名スongoノ。

アノマン(ブラボロ)シントより得た呪文の力により変身したアノマンの姿。

